

水循環の概念図について

内閣官房 水循環政策本部事務局
令和7年6月



健全な水循環ロゴマーク

1. これまでの経緯

過去の水循環の概念図（～ R1）



現在の水循環の概念図（R2～）



水循環基本計画改定（R2.6）に向けた
有識者会議での議論を踏まえ決定

【当時の有識者会議でいただいた主なご意見】

- 健全な水循環とは、治水、利水、環境のバランスが大切で、（過去の）イメージ図は、利水面は大きく表現されているが、治水面や環境面もバランスした状態をわかりやすく表示できれば、より多くの方に水循環の考え方が浸透するのではないか。
- 個々の取組み、目指す姿を実現するためには、水循環というフレームでものを考える必要があることを図から伝えることが重要。
- ダム以外にも、貯水池による適切な流水管理のような人為的なコントロールは治水・利水に関わらず重要なので、図の中にあってもよい。
- 内容を入れ込み過ぎると煩雑になり、わかりづらくなるため、その調整は難しい。
- 全てを一枚の図で表現するのが難しければ、何の目的で誰に示すのかの観点で精査したり、目的に応じたいくつかの図を作成することも考えられる。

2. 最近の有識者会議等におけるご意見等

最近の有識者会議等でいただいた主なご意見

- 自治体の水循環の概念図は、どこも同じようなものが多い。
- 自治体の水循環の概念図は、近くの海で蒸発してすぐ近くの山に戻るようなものが多い。
水循環政策本部の今の概念図がわかりやすい表現にしていることで、違った捉え方になっているのかもしれない。
- ローカルな視点と広い視野の両方を持つようになるといい。
- 自然と人とインフラ、構造物が一体となって水を治めているという時に、どうしても自然さえ健全であればいいかのように思ってしまうというところが、ありがち。
- 現在の流域水循環計画は、どうしても自然現象としての水循環というところに力点が置かれ過ぎている。
- 人間が介在しての水循環というところに、もう少し焦点を当てて、人間が造った人工的な水を流す設備というの、取り込んでいただきたい。
- 水を通じて総合的にマネジメントすることにより、私たちの恵みを 増やし、経済も振興し、ウェルビーイングも増やすことが重要。
- 水循環の人材育成の難しさは、ターゲットとする年代層やステークホルダーがなど様々であること。それぞれの事情や課題に応じて対応することが必要。



これらのご意見を踏まえ、新たな水循環基本計画では、水循環の目指すべき姿として以下の記載を追加

- ・水循環には、水道施設や下水道施設などの水インフラを流下する過程も含む
- ・良好な水環境が創出されることで、国民のウェルビーイングの向上を図ることが重要
- ・子どものうちから水の大切さを学び、成長過程に応じて水の大切さを理解することが必要



水循環の概念図について検討

3. 既存の流域水循環計画等の傾向

既存の流域水循環計画等における概念図の傾向

- ①水循環を広範囲に捉えているもの
- ②水循環を限定的に捉えているもの
- ③水インフラの概念を入れているもの
- ④水循環と人との関わりがよく見えるようなもの
- ⑤自然の水循環のみに着目しているもの

4. 今後の検討方針（論点）

概念図の方向性について

水循環政策本部事務局で用いている水循環の概念図について、

- 何を目的に、何をターゲットに、概念図を検討していくのか。
- 現在の概念図を変更した方が良いのか。
- 変更する場合、変更すべきポイントは何か。
- 変更しない場合、どのようにすれば水循環の正しい概念が世の中に伝わるのか。